

B-45 汚染用布の種類による汚染性の相違について  
鹿児島県立短大 中村道子

目的 ドライクリーニングの洗淨試験に使用する人工汚染布について検討するため3種の汚染物質をとりあげ、汚染用布の種類による汚染性の相違について実験した。

方法 試料布は木綿、羊毛、ポリエステル、アクリルの4種、汚染物質として①カーボン ②カーボン、牛脂、流動パラフィン。③カーボン、牛脂、ラノリンの3種を用いこれらよごれをパークロールエタレン中に分散させ恒温振とう機(35°C, 110 rpm)で30分振とう後、30分の汚染を行った。

又これらよごれの汚染に及ぼす界面活性剤添加の影響についてA-OTの濃度(0, 0.3, 0.5, 1.0, 2.0<sup>g</sup>/100ml)について検討した。

結果 (1) 試料布と汚染物質との関係については①及び②の汚れについてはアクリル>ポリエステル>羊毛>木綿の順に汚染されやすい。又ラノリンを添加した③のよごれについては羊毛が汚染されやすかった。

(2) A-OT濃度と汚染性については木綿、羊毛では0.3<sup>g</sup>/100ml, 0.5<sup>g</sup>/100mlでは汚染が著しく、A-OTを添加しない場合にかえって汚染が少なかった。ポリエステル、アクリルについては0.3<sup>g</sup>/100ml, 0.5<sup>g</sup>/100mlあたりで汚染が少なくA-OTを添加しない場合に汚染が著しかった。